

## 講義レジュメ

講 師 津田 英二

内容・テーマ

社会的包摂と社会教育

期 日 8月20日(月)

### 1. 包摂＝インクルージョンという言葉

排除＝エクスクルージョンの反意語です。

包摂が課題となる背景には、社会に排除が横行しているということがあります。

包摂は、排除と逆の方向に引っ張る運動です。

社会教育には、どのような排除とたたかう実践があるでしょうか。

この時間は、障害者の排除とたたかう社会教育の実践がテーマです。

### 2. 障害者はどのような意味で排除されているか？

なぜ社会参加が制約されているのか

物理的な制約がある

一人前としてみなされない

参加に必要な能力が不足しているとされる

冷遇される、避けられる

→ 合理的配慮 reasonable accommodation

### 3. 合理的配慮とは？

・国連「障害者権利条約」、障害者差別禁止法によって、定着してきている概念です。

・Reasonable accommodation の訳語です。「適切な便宜」「正当な便宜」と訳している国もあります。

・社会は、ひとりひとりの人間が十分に社会参加できるよう、便宜を図らなければならない、という意味です。

・合理的配慮は、1)なるべく多くの人に参加できるように条件を整える、2)ひとりひとりの人が参加できるように調整する、という2つの段階があると考えられます。

#### 4. 社会教育における合理的配慮（1）

・社会教育の実践は、なるべく多くの人たちが参加を妨げられないように条件を整備してきたでしょうか。

物理的障壁はどうでしょうか。

コミュニケーションや情報における障壁はどうでしょうか。

社会教育の実践現場における偏見や差別についてはどうでしょうか。

#### 5. 社会教育における合理的配慮（2）

・社会教育の現場では、ひとりひとりの人が十分に参加できるための調整に取り組まれてきたでしょうか。

参加が難しい人の困難の声を聞いて、その声に応じるということはどうでしょうか。

学習ニーズがはっきりしない人などについてはどうでしょうか。

「どうせ私は受け入れてもらえない」と思っている人についてはどうでしょうか。

#### 6. 障害者青年学級のあゆみ

・1960年ごろ、特殊学級のアフターケアとしてスタート。

・教員が学校で、離職した青年たちが元気を取り戻す場を創出していました。

・この取り組みが、青年学級振興法（1953-1999）の対象となり、社会教育の実践として発展しました。

・それによって、支援者は教員から市民へ、実践の場も学校から社会教育施設に広がっていきました。

・関東圏では、障害者青年学級系列の実践が自治体の独自予算で実施されています。

・しかし、関東圏を超えて広がることはありませんでした。

#### 7. 障害者青年学級が発展してよかったこと

・ライフプランに組み込むことができるほどの安定性

・障害者の生活の構成要素になるほどの日常性

・さまざまなプログラム展開の蓄積

「自立」に向けた学びとは？

地域に根ざした展開とは？

「仲間づくり」の意味は？

生きがいつくりの方法は？

・地域、市民への波及効果

## 8. 障害者青年学級が抱えるいくつかの課題

- ・なぜ関東圏から外へ広がらないのか？
- ・ニーズの多さに対する社会資源が乏しさ
- ・学習者の高齢化への対応
- ・学習成果を評価する基準の多元性
- ・地域社会とのつながり、市民との連帯
- ・支援者の慢性的な不足

→排除とたたかう実践になっているか

## 9. さまざまな障害者の社会教育実践

- ・特別支援学校の同窓会
- ・大学がもつ学習資源を活用した、公開講座、オープンカレッジ
- ・就労支援施設や生活介護の事業所などが取り組む学習活動、文化芸術活動
- ・特定領域を専門とする NPO 法人などが実施する学習活動、文化芸術活動
- ・親の会が組織する学習活動
- ・障害者たちが自ら組織する学習活動

## 10. 障害者の社会教育のさまざまな内容

- ・学校教育と社会・労働との間に位置づく実践（移行教育）
- ・経験や社会関係の貧困、社会的排除の問題を扱う実践
- ・自己決定、自己実現、QOL を高めることに焦点がある実践
- ・知識や技能に力点がある実践
- ・社会関係形成に力点がある実践
- ・自己表現・自己表出に力点がある実践

## 11. どうやって事業を始めるか

- ・近隣にどのような学習機会があるか調べる
- ・キーパーソンを見つける
- ・学習ニーズを聞きこむ
- ・活動内容、曜日や時間帯を決める
- ・学習資源を集める
- ・支援のネットワークをつくる

---

〔参考文献〕

津田英二『障害のある成人の学習支援論』学文社、2006年12月

津田英二『物語としての発達／文化を介した教育』生活書院、2012年10月

小林繁編著『学びのオルタナティブ』れんが書房新社、1996年8月

小林繁編著『この街がフィールド』れんが書房新社、1998年2月

小林繁編著『学びあう「障害」』クレイン社、2001年9月

津田英二「「障害者の社会教育」再考」『月刊社会教育』No.706、2014年8月

津田英二「社会教育と社会福祉」『月刊社会教育』No.743、2018年4月、pp.12-15

津田英二「「障害者の基礎教育保障」は「共生保障」になりえるか」『基礎教育保障学研究』創刊号、2017年8月、pp.36-48